

Nadeshiko-no-kai Report

東京学芸大学附属 小金井小学校 ● 同窓会



撫子の会

会報

14

号

小学校はエンピツの匂い

新会長挨拶

さらに充実した

新たなステージへ

撫子の会々長 佐々智樹

昨年十一月の総会で会長にお運び頂きました佐々智樹です。私は小金井小学校の第一回卒業生として約五十年前に卒業、豊島小学校が廃校となり六年生一年間だけ小金井にお世話になった豊島最後の世代でもあります。伝統ある豊島・追分・小金井3校が一体となった撫子の会をさらに充実した同窓会とするために、非力ではありますが鋭意努力して参ります。

初代の天城勲会長をはじめ、藤田暉夫会長、金子修也会長、そして役員各位の二十年にわたる努力によって、現在3校同窓生の親睦は強い絆で結ばれ、百年を超えた歴史を誇る学校の同窓会の礎を築く事に成功しました。

小金井卒業生の一部がすでに六十歳を超えた今、会員一万五千人を超える大きな同窓会として新しい行動に移る時が来ました。

●同総会を毎年開催

その一つとして、今年から同窓会を年一回定期的に開催し、今年は十月にその第一回を行ないます。これまで会則にならって運営されてきた総会とは別に、3校の卒業生誰でも自由に参加できる、年一回の同窓会です。恩師を囲み小金井の地で同窓生・同期生が集う会とするために、お世話になった先生方との絆も緊密に保つことのできる組織にしたいと考えます。

●伝統の教育を守る支援体制を構築

東京府豊島師範学校々長、成田千里先生が「海の道場としての至楽荘」を昭和九年七月に、「野の道場としての成美荘」を昭和十一年八月に、「山の道場としての一字荘」を昭和十四年七月に開設、ここに「海・野・山」に三荘を持つ恵まれた環境が整い、自然体験教育は母校の優れた伝統となって引き継がれています。第十三号の撫子の会々報に飯田校長が自然体験教育の重要性を述べています。自然体験が豊かな子供たちは体験が乏しい子供たちに比べ「困った時でも前向きに取り組み」力があるそうです。

豊島出身の多くの卒業生が芋掘りや田植え、稲刈りをした東久留米の成美荘。その後豊島の廃校とともに2万坪を超えた壮大な施設は姿を変え、現在は成美教育文化会館、学芸大学附属特別支援学校などの施設があります。その成美荘の宿泊施設、養気閣が丘の上にひっそりと残されている事が昨年十一月の総会で東京学芸大学藤井副学長より報告されました。完成以来八十年近く経った木造の建物とそれを取り囲む自然が昔のまま残っています。しかし残念なことに台風で屋根に倒木が当たり浸水、また長年の風雨による傷みがひどく、補修するか解体するか、大学は決断を迫られています。大学運営予算が毎年削減されている中であって予算の捻出が難しく、撫子の会と一緒に救済の手だてを探りたいという相談でした。我々に十分な資金があれば建物を補修し荒れ果てた林を里山に復帰して、トトロの森に負けない撫子自然教育園として、在校生や卒業生家族のために開放することとは「大自然の懐において学ぶことは人間教育にとって極めて大切なことである」と説いた故成田校長の理想の復活になるのではないかと思いう次第です。

また昨年の総会で小学校父兄会からご依頼のあったエアコン設置の援助は、小額ですが会費から寄付させて頂くことにいたしました。このように小金井小学校の優れた教育環境を守って行くのは我々の仕事でもあります。今後卒業生による資金的支援体制を作る時期が来たと考えています。

撫子の会役員一同力を合わせ、いっそう充実した活動をしてまいります。ご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第九回総会報告

昨年平成二十四年十一月十七日、あいにく天候に恵まれず少々気温の低いなかでしたが約七十名の同窓生が小金井小学校の食堂一階に集まり、「撫子の会」総会が開かれました。

報告Ⅱ副会長・川田紀雄

■その一「総合報告」

冒頭、金子修也会長より三校同窓会合同から二十年を経ていよいよ豊島・追分・小金井の一体化も自然に受入れられ、共同して活動

することも板についてきたが、撫子の徽章のもとさらに一丸となって、共に活発に行動して行こう、という指針が掲げられました。

小金井の年長世代もいよいよ還暦を越え、活動の主体も若い世代に引き継ぎながら、さらにもっともっと若い今の学生世代に同窓会が楽しく、加えて有意義なことを伝え、広めて行かなければなりません。

●平成二十三・四年度収支決算

および監査報告

目立った点としては二十四年度に鵜原至楽荘近隣での産廃処分場建設反対に際して会報十二号別冊を印刷・配布し、反対署名を集めた時の経費計上があげられますが、特に問題はなく承認されました。

●任期満了に伴う役員改選

理事会から新役員案が提案され、承認されました。その場における理事互選の結果、次ページにある新役員が決定・選任されました。

●鵜原問題に関し

鵜原の産廃処分場建設反対運動は、会員の皆

●新役員

特別顧問	金子修也	金子追分	昭25卒
監事	楠本維大	小森康平	昭58
	丸森康平	小森康平	昭51卒
	吉田朋弘	小森康平	昭58
	清水洋岐	小森康平	昭56
	保坂健二	小森康平	昭52
	神田薫	小森康平	昭46
	鈴木弘	小森康平	昭41
	柴田道彦	豊島	昭35
	山佐和雄	追分	昭33
	西山マサ子	追分	昭32
理事	石塚久	豊島	昭30卒
	野久尾悟	小金井	昭51
副会長	川田紀雄	小金井	昭41
会長	佐々智樹	小金井	昭39卒

●決算報告収支計算書

平成 23 年度 (H23.4.1. ~ H24.3.31.)

●収入の部	■支出の部
前年度繰越金 8,603,100	会報 12 号 + 別冊・印刷郵送費 1,446,795
式典参加費・支援金 685,910	鶴原署名礼状ハガキ 239,447
記念品売上げ 296,905	郵送費・事務雑費 16,184
入会費 1,530,000	HP 維持改訂費 42,840
* H24 年 3 月卒業生 153 名	次年度繰越金 9,371,287
利子 638	
.....
収入合計 11,116,553	支出合計 11,116,553

平成 24 年度 (H24.4.1. ~ H25.3.31.)

●収入の部	■支出の部
前年度繰越金 9,371,287	会報 13 号・印刷郵送費 672,505
第 9 回総会々費他 115,000	第 9 回総会懇親会経費 142,470
記念品売上げ 16,000	名簿編集外注費 95,630
入会費 1,560,000	連絡・郵送・事務雑費 20,009
* H25 年 3 月卒業生 156 名	慶弔費 69,110
寄付・支援金 641,200	HP 維持改訂費 42,840
利子他 52,436	次年度繰越金 10,713,359
.....
収入合計 11,755,923	支出合計 11,755,923

●成美荘保存に関し
ご来賓としてご来席の学芸大藤井副学長から

●母校の冷房化寄付依頼に関し
出席者の母校 P T A 前会長山本信義氏(同

様のご協力のお陰をもちまして、平成二十三年九月十五日、千葉県による建設計画見なし取り下げ判断により、現状は建設計画が停止状態となっています。その後現在も地元と連絡を取り合いウォッチングを続けています。

成美荘の建物が老朽化のため解体処理の危機にあることこの状況説明があり、保存の可能性がある今のうちの協力を要請なさいました。今後、理事会にて対応を検討することにしました。

窓生)から母校の冷房化の必要性、現役世代の保護者が主体となって費用負担していること、工事予定などの現状説明と、撫子の会からの寄付等協力の依頼があり、今後理事会で対応策を検討して行くことにしました。(了)

■その二「特別講演報告」

「モヤモヤしたイメージの段階が
とてもだいい。」

いま音楽畑で大活躍の同窓仲間

笹路正徳さんに

総会の特別講演をおねがい
しました。



プリンセス・プリンセス、松田聖子、コブクロ、パフィーほか、多数のアーティストをプロデュースしてきた笹路正徳さんは、昭和四十三年小金井小卒の五十八歳。小金井小・中・高から慶応大学と進まれました。作曲や編曲も手がけ、キーボードプレイヤーとしても活躍されています。このようなマルチな才能はどうやって生まれたのでしょうか。総会のあとの「撫子の会懇親会」での講演内容をふりかえります。

レポート 理事 神田 薫

小学校に入学した頃、家に帰っても地元で遊ぶ友だちがいなかった笹路少年は、部屋にこもって音楽を聴くのが唯一の楽しみとなりました。小学一年生でクラシックに目覚め、ベートーヴェンやモーツァルトを聴くようになるのですが、ちょうど日本にも多彩な外国音楽が入ってきた時代で、たちまちビートルズの虜になりました。ジャズを聴き始めたのも小学二年生の頃だったそうです。そして、リズムのある音…ドラムが好きに。

一方、学校の音楽の時間はクラシックが中心で、今では考えられないことですが、軽音

楽を採り上げるのはタブーでした。それでもコントラバスを奏する田中準先生の授業はとても楽しかったそうです。ピアノが上手だった笹路少年は、アコーデオンのバンドのメンバーにも指名され、毎日朝練に通いました。

ところがピアノの腕前は素晴らしいのに、より上を目指したお母様の厳しいレッスンでピアノが嫌いになり、音楽にも自信がなくなってしまう。でもビートルズが大好きでたまらなくて、その「誰よりも音楽が好きだ」という自信が、のちに音楽の道に入るときの迷いを吹き消した、ということでした。

中学生に成長した笹路少年にとって、嬉しい出会いがありました。教育実習生の中に軽音楽部の学生がいたのです。コードの書き方を教わったり、「サビ」とは何のことかを聞いたリ、そしてそれがきっかけで学芸大の軽音楽部に通い始めます。ついには一緒に演奏するまでになっていました。附属でも、大学が同じ敷地のなかにある小金井だからこそできた貴重な体験だったと、力強く語られていました。

さて、現在の笹路さんですが、編曲の仕事を中心にされていて、そのときとてもだい

じにしていることがあるそうです。若い人たちにもよく話しているというそのこととは、「モヤモヤしたイメージの段階を大切にすること。具体的な形にするのは、できるだけいちばん最後にすること。イメージ↓方法論(どう表現するか)↓作品、というプロセスをたどるとすると、この『モヤモヤしたイメージ』の部分が七割を占めており、絵画の場合もそうであろうし、芸術全般に言えることだと思う」とのことでした。

何かを生み出そうとするとき、イメージのなかで考えていくことが大切なのであって、形にすることを急いではいけない。ということでしょうか。

人間の想像力の、無限の可能性と偉大さに気づかされた思いです。誰の内にも本当は広い宇宙があり、意識を集中すれば見えてくるもの、聞こえてくるもの、感じてくるものがあるのかも知れません。

笹路さんは、講演の最後をこう締めくくられました。「皆さんもどうぞ、もっと音楽聴いてください。そして楽しい人生を過ごしてください。」(P)

そのあと楽しく懇親会



おとなの給食いただきました。

母校から・先生から

変化のさなかの学校から ご報告と感謝と

附属小金井小学校副校長 関田義博

●国からの予算の削減に伴い

平成十六年度の国立大学法人化にともない、本校を含む東京学芸大学学校の運営は大きく変わりました。

国から大学に交付される運営費交付金には、毎年、前年度比1%削減という効率化係数が適用され、恒久的な予算削減措置がとられています。国からの予算削減に伴い、平成十九年度には東京学芸大学教職員の人員削減が決定されました。大学全体では55名の教職員が削減されましたが、本校も平成二十一年(二十四年度)に毎年1名ずつ、計4名の教職員が削減されることになり、昭和四十一年から続いていた全学年四学級の体制は維持することができなくなり、今年度は四年生までが三学級となりました。

人件費を除く本校の教育予算は、大学からの予算となでしこ育成会（教育後援会）由来の予算と、大きく二つに分けられます。大学から配分される予算は毎年減額され、平成十七年度には約三千万円あったものが平成二十四年度には約六百万円と、五分の程度まで減りました。その分、入学した児童の保護者からの負担を大きくせざるを得ず、平成十七年度には十万円（下限）だった寄付金学（なでしこ育成会入会金）を、平成二十五年度には三十万円と値上げすることになりました。値上げが必要となった背景には、配分予算の削減だけでなく、学級減に伴う児童数減による収入源という別の問題も存在します。

●教育系国立大附属学校の役割

国立大学が法人化したことによる影響は、本校の教育活動ならびに研究活動にも現れています。教育系国立大学の附属学校には、文部科学省から「国の拠点校」ならびに「地域のモデル校」になることが求められています。これまで本校は多くの先進的な取り組みを行い、「国の拠点校」という役割を十分に果たしてきました。しかし「地域のモデル校」に

子供たちはどんな話をしながら下校するのかなあ？

「今日も楽しかった」

「暑かったア」

写真提供：関田先生



については、小金井・小平・国分寺等周辺市との連携は十分でなく、その役割を果たしては
いません。そのため最近では、本校教員が周
辺市公立小学校で行なわれる研究会にアドバ
イザー等の立場で積極的に出向く機会が多く
なりました。「地域のモデル校」をめざす取
り組みについては、今後も継続して地道に努
力していくことが求められています。

●総力を挙げて伝統の施設で

至楽荘と一字荘での宿泊生活では、昭和九
年以來八十年の歴史と伝統を受け継いだ取り
組みが行われています。児童は、バディーと
息を合わせた遠泳、仲間と励まし合いつつ頂
上をめざす蓼科山登山等を行うことで、教育
目標の一つである、真の「強くたくましい子」
への成長をめざしています。二荘を活用した
集団宿泊生活は、機関の教育活動として、毎
年総力を挙げて実施しています。

●懸案の冷房化

現在の最大の懸案事項は、普通教室の冷房
化です。

現在、一、六年生の普通教室については冷

房化が全く行われていません。本校と附属幼
稚園、特別支援学校を除くすべての学校園は、
保護者の寄付による冷房化が完了しているた
め、今年四月に行われた「保護者と教師の会」
総会において、本校も同じ取り組みを行うこ
とが正式に承認されました。在校生ならびに
現中学一年生の保護者からの寄付は予定を上
回る金額が集まり、計画が順調に進むと八月
中に工事は完了し、二学期から冷房を稼働で
きる見通しになりました。

なお、教室冷房化の取り組みを支援してく
ださる目的で「撫子の会」からご寄付の意向
があるとのこと、同会役員の方からうかが
いました。母校へのあたたかい愛情をお示し
くださった同窓会の皆様に、改めまして深く
感謝の意をお伝え申し上げます。

すばらしかった！

小金井小学校の思い出

高浦 浩

東京オリンピックは、1964年のこと
でした。その翌年、私は小金井小学校に赴任し
ました。二十四歳の時です。母校学芸大学の

東門のところにあつた小金井小学校は立派な
校舎で、学生の頃からよく見慣れていました。
この学校に赴任すると決まったときは、胸が
ときめきました。小金井小学校の歴史と伝統
はよく聞かされていたからです。

四月、紹介されて、みなさんの前に立った
時の空の大きかったこと！ 校庭の広かった
こと！ 子供たちの大勢だったこと！ 先輩
の先生から「ここは教育の道場みたいな所で
すよ」と聞かされた時はまだ、その意味をよ
く理解していませんでした。やがて校内研究
会、研究合宿、研究発表と怒濤のような忙し
い生活を体験して、やっと新しい学校がどの
ようなところか分つたのです。

●子供たち

低学年以上の子供を図工専科の二人で分け
持ちました。伴先生と私です。最初にびっく
りしたのは（子供たちの）姿勢のよいこと、
応答の早いこと。何か質問すると、すぐ大勢
の手が挙がり、様々な答が返ってくることに。
応答の暇もないほどです。こうした学習習慣
が小さな頃から身につけているのです。驚く
べきことです。

● 図工の授業

図工の授業は毎回楽しみでした。始めの頃は檜の角材で橋や塔を作る授業をしました。男子の中にはこの授業に打ち込む生徒がいて、相当高度な構造物をこつこつと作り、驚きました。二人並んだ友達の顔を写生する授業もよくやりました。校内展覧会で体育館に張り出されたその絵を見て、参観のご父兄から「うまいものですなあ。一人一人顔の特徴が出ていて」とおほめをいただきました。「三年生の写生です」とお答えすると、「観察力がすごい」としきりに感心していらつしやいました。

● 先生方

昭和四十二年の冬、郷里の島根に帰省していたところ、私は体調を損ね、入院休職一ヶ月ということになりました。山陰の暗い冬空を見て鬱々と過ごしていたある日、副校長の稲葉先生が突然病床にお見舞いに来られ、びつくりしました。東京から島根まで十二時間以上もかけておいでになられたのです。子供たちの手紙の束を見たときには思わず涙がでそうになりました。

小林森先生は板書のすばらしくお上手な方でした。私は密かに小林先生の板書を見て書

写を練習しました。先生方は皆きれいな字をお書きでした。

田中準先生の指導された子供のアコーディオンバンドにはいつも感心しました。芸術教育はこのようにやるのだと教わったような気がします。レベルの高い、美しい演奏でした。卒業式の「フーガの技法」にはいつも感動しました。私がバツハ好きになったのは、この先生のおかげです。

村山先生は、子供たちからも先生方からも「附属のお母さん」と慕われていました。村山先生からは、教師の仕事は結局、人柄そのもので行うものだと教わりました。



私は今も現役の教師です。そして今も絵を

描いています。二年に一度の個展も二十五回になりました。私の目標は、毎回新しい絵を発表することです。そ

して心地よく絵を描くことです。来年三月、私は四十九年も続いた教職から離れます。今は元気で、幸せな毎日です。

お寄せくださいました

先駆的だったサッカー導入

母校サッカー部

〈なでしこ〉の思い出

P T A 前会長 山本信義

本校の子どもたちに「なでしこと言えば？」と問えば、ほぼ全員が「校章！」と答えるでしょう。

なでしこが校章に定められたのは、豊島・追分・小金井と続く歴史から考えれば、自然の流れであったと思います。野に咲く可憐な姿から、花言葉は「純愛」「無邪気」など女性的である一方、「大胆」「勇敢」と男性的でもあり、本校の子どもたちを表現するのに相応しい花です。

一昨年来、女子サッカーの代名詞としてマスコミで「なでしこ」が連呼され、お茶の間にも馴染み深い花になりました。女子サッ

カー・ワールドカップで優勝、ロンドン・オリンピックでの準優勝と、東日本大震災以降、落ち込んでいた日本国民の心を躍らせてくれたのは記憶に新しいところです。

● サッカーでは、本校にも〈なでしこ〉が四十年以上前に存在しました。六年生Aチームの愛称であり、小金井市内で一、二を争う強豪でした。あくまでも真つ向から、誠実に相手チームに立ち向かう精神を持ったチームでした。かつて私も在籍し、その誇りと〈なでしこ〉を胸に戦いました。国内でサッカーが全く人気のなかった時代に、小金井小で活動が盛んだったのは奇跡的です。これは「土曜サッカー」を提唱・実践された腰山先生を始め、その精神を引き継がれた小島先生、それに続いた先生方のおかげです。

そして現在は、クラブ活動から派生したチーム、F. C. Nadeshikoがこの伝統を受け継ぎます。私はこの活動にも携わりますが学校外活動のため学校記録に残らないことから、この場を借りて彼らの記憶を記します。この三月に卒業した六年生は、東京都大会出場という快拳をみごと成し遂げた初めての学

年となりました。

改めて「おめでとう」そして「ありがとう」と言いたいと思います。

子どもたちは〈なでしこ〉の思い出を胸に小金井を巣立ちました。彼らが元祖「なでしこ力」を発揮し、世界の平和、社会の発展に貢献してくれることを大いに期待しています。

編集部註 この文章は、平成二十五年三月発行の学報「なでしこ」第五十四号に掲載された文を執筆者の許可をいただき転載しました。

サッカーと附属小学校の関わりは古く、師範学校に学んだ先生方が教育の一環として普及させたことに端を発するとも伝えられています。およそ半世紀以前のサッカーが未だマインナーだった時代に導入していた附属小学校に、教育の先進性独自性を見ることができま

す。それを支えた腰山先生はじめ多くの先生方や「土曜サッカー」クラブなどを挙げられます。編集部では附属の「サッカー物語」の寄稿をお待ちしています（12頁ご参照）。

なお昨年、関連して大場先生に取材しようとした矢先にご逝去されました。

成田校長先生が残されたもの

自分史と交差して…

私と豊島と九段

昭和二十一年豊島小卒 川上高央

● 私が豊島師範附属小学校に入学したのは、当時池袋に住んでいて、九才上の兄が豊島で学んだことが動機でした。また、母が兄在学当時の校長・成田千里先生の教育方針に深く共鳴しており、昭和二十一年に豊島小卒業の私は、その母の勧めで、当時の都立九段中学（後の九段高校）を受験し入学しました。同校が東京市立第一中学校だったころ成田先生が校長をされていて、その教育方針に共鳴していたのが母の勧めの元でした。

● 九段には、豊島と同じように府中市の多摩川沿いに「尽成園」という農園と、千葉の至楽荘近くに「至大荘」という海浜施設があります。さらに成田校長の方針から、学内には完備した化学教室、生物教室、音楽教室（壁は全てコルク張り）、階段教室、それと生徒全員のロッカー、室内プールに二階建ての体

育館、地下の大食堂、屋上の天体望遠鏡ドームなど至れり尽くせりの学校で吃驚したのを覚えています。運動場が比較的狭いので、フットボール部に所属していた私たちは府中の尽誠園まで練習に通いました。

現在、そこは広がった敷地の一部を多摩市に譲渡し、立派なテニスコート数面、体育館などが建設されています。それらの施設は全て法人九段という、卒業生・退職した教職員が創った法人が維持管理をしています。豊島と同じく成田先生が公的資金を一切使わずに建設した施設は別の法人の所有管理となっています。

数年前に豊島の同級生数人と成美荘を訪ねた時、西武池袋線東久留米駅前の成美教育文化会館内に財団法人豊島習練会を訪れたことがあります。この法人は昭和十六年に設立され、成美荘・一字荘・至楽荘の三つの施設の運営管理をしており、九段の「法人九段」と同じ役割を担っています。法人九段は十年程前に尽誠園の一部の土地を多摩市に譲渡し、約二十億円の定期預金とテニスコート数面、体育館などの施設を新設しました。



1. 成美教育文化会館 2. 武蔵野の貴重な里山 3. 黒目川から見る景観
4～5. 老朽化した成美荘養気閣



補修するにも解体するにも費用が問題

私は豊島と九段というどちらも成田校長時代に完備した校外施設を建設されたおかげでそれらを十分に活用する学校生活を送れた事を深く感謝している次第です。

編集部註 成美荘問題に関しては、撫子の会としてどのように対応すべきか、理事会の今後課題でもあります。本号冒頭に掲載の新会長挨拶と総会報告をご参照下さい。

集まりました！

歌えました！

腰山学級クラス会

昭和三十二年追分卒 井口孝俊

入学から卒業まで一度の組替えもなく六年間、担任としてお世話になった腰山先生が亡くなられて、今年の五月でちょうど十年になるのを機に、去る五月二十六日に昭和三十二年追分小学校卒業の一組のクラス会を開催しました。

当日は、腰山先生の奥様と、小学時代に一緒に遊んだお嬢様（竹早校）ご卒業の一年先



輩）にご出席頂き、六十年前の話に花を咲かせました。最後に校歌と腰山先生作詞・飯田先生作曲の「楽しい附属」や、「林間学校の歌」や「開校記念日の歌」を歌いましたが、最近のことは直ぐ忘れる年頃なのに、子供の頃のこととはよく覚えていて、当時の楽しかった遠足や林間学校の情景を思い出して、伴奏無しでもうまく歌えました！

撫子の会 ● 掲示板

● 四十度の教室

母校冷房化 寄付のお願い

撫子の会／第九回総会において、母校PTA会長山本信義氏（同窓生）から母校冷房化の必要性、現役世代の保護者が主体となつての費用負担、工事予定等について説明がありました。理事会は、毎年夏、四十度近い室温の中で授業が行われている現状の改善に少しでも協力できないかと考えました。

母校は本年四月入学の新生を含め寄付金徴収を行っており、学芸大学冷房化関連インフラ工事を行って織りなす。理事会としては、資金的事情で数年はかかる工事を早めるために、同窓会資金の中から二百万円寄付することを決定しました。これによって、来春までに全教室の工事完了が可能になりました。

なお撫子の会としては今後も案件に応じて母校支援事業も検討して行きたいと考えております。その資金となるご寄付をいただけるならば幸いです。払込取扱票を同封いたしましたので、よろしくお願いいたします。

旧追分校記念碑

建立プロジェクトが進行中

旧附属追分小・中学校の校舎は文京区立六中となり、現在、文京区の複合施設として建替えが進められています。その新屋に旧追分校の足跡を残す記念碑を設置すべく、撫子の会は文京区と調整中です。

追分校は、戦争で失った教員を補充すべく官民が協力した戦後教育史の中で、その役割の一端を担った歴史があります。碑板は、たんに自校が在ったことの証にとどまるものではなく、戦争末期から戦後期の日本の教育史の一端に触れるものになりたいと構想しています。今後の進捗は追ってご報告します。



撫子の会／HPからお願い

協力メンバーを募集中

HP 担当理事 保坂健二・神田薫

同窓会「撫子の会」のホームページも積極的リニューアルを計画しています。同窓会のオフィシャル情報のほか、同窓生の社会的活動の紹介や、同期会・クラス会情報、恩師の情報などを発信して行きたいと思っています。そのためHPの運営制作にご協力していただけるお仲間（委員）を求めています。ご興味のある方は左記までご連絡下さい。

●保坂 CXJ15415@nifty.ne.jp

<http://www.nadehikonokai.jp/index.html>

●寄稿歓迎

皆さんと創る会報を目指しています。クラス会、同窓仲間との集い、母校の歴史ほか何でも。まずは左記にお申出ください。

川田 紀雄 電話 042-324-9912

野久尾 悟 電話 03-3720-8023

nadeshikokaiho2013@gmail.com

その上で、寄稿の場合は具体的要領をご案内して、進めさせて頂きます。

●編集後記

平成十四（2002）年から続いた誌面スタイルを今号から新しくしました。すでに役員や活動の体制が豊島・追分・小金井の別なく一体化し小金井世代中心になってきた機会にタイトルを一新し、また、ご年配者を配慮して本文の文字を大きくしました。

編集者とは指揮者なのだ。諸先輩より編集業務を引き継ぎ感じていることです。多士済々の附属卒業生からどんな音色を引き出せるか。金子顧問（前会長）というマエストロにご指導を仰ぎつつ、新しい会報を目指して奮闘していきます！（野久尾記）

「撫子の会」会報・14号

発行 平成 25(2013) 年 9 月
編集 野久尾 悟 西山マサ子
編纂 金子 修也
印刷 山信印刷

投稿寄稿問合せ先

川田 紀雄（電：042-324-9912）
野久尾 悟（電：03-3720-8023）
同窓会事務局
東京学芸大学附属小金井小学校内
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1
電話：042-329-7823
ファクス：042-329-7826
撫子の会郵便振替口座：00100-8-709121
加入者名：撫子の会